

# 平成30年度 事業報告

第二青陽園

計 画	実施状況
<b>1 事業</b> (1) 特別養護老人ホームの経営 <div style="text-align: right;">定員 90人</div> (2) 老人短期入所事業の経営 <div style="text-align: right;">定員 10人</div>	計画どおり

<b>2 経営方針</b>	計画どおり
---------------	-------

<b>3 行動指針</b>	計画どおり
---------------	-------

<b>4 収支目標</b>	
特別養護老人ホームの長期入所年間利用率を98%、短期入所生活介護事業年間利用率を98%とする。	長期入所利用率 95.7% 短期入所利用率 101.6% 合計稼働率 96.3% 要介護度 入所 3.8 短期 2.5

<b>5 実施内容</b>	
<b>(1) 施設の安心・安全な運営</b>	
<b>①社会的な信頼の確保と向上</b> ・第三者委員参加のもと、苦情防止解決委員会を開催し、苦情や意見に対し誠意をもって対応する。 ・研修等の実施を通じ、適切な個人情報管理の意識向上を図る。 ・第三者評価の受審結果をもとに、利用者サービスの向上に繋げる。 ・ユニットケアの充実・向上を図るためユニットケア推進委員会の取組を行う。	<b>①苦情防止解決委員会を4回開催し、第三者委員に家族・利用者懇談会に参加いただき直接意見を言える機会を持つことができた。</b> 個人情報保護研修を実施し、新人研修においても個人情報保護の重要性について説明を行った。 第三者評価を受審し、良好な評価を得る事が出来た。 ユニットケア推進委員会の取組を推進し、ユニット型施設としての質の充実・向上を図った。
<b>②医療体制の維持</b> ・管理医、嘱託医の定期診察により、慢性疾患等の管理及び認知症等に対し、適切な対応を行う。 ・看取り期や急変時の対応充実として、夜間を含めた医師、看護師のオンコール体制のもと介護員と連携し医療対応を提供していく。	<b>②管理医、嘱託医の定期診察を行い、急変時等については、昼夜問わず、医師と医務課が連携し対応した。</b> 精神科医を1名配置し、定期診療を行った。 八王子高齢者緊急医療体制広域連絡会（八高連）への継続加入により、迅速で安全な救急搬送体制と受入先となる病院等との連携が強化された。 終末期について、ご利用者と家族等の意向に沿って、10名の看取りケアを行った。
<b>③防災体制の整備</b> ・防火管理委員会のもと防災訓練を実施し	<b>③避難訓練を6回実施した。</b> 防火管理委員会において、避難訓練等の検証

<p>防災意識の向上を図り、定期的に防災設備、避難経路、避難手順等の周知徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防設備の定期点検を実施する。</li> <li>・ 防犯に留意し、館内施錠管理他の設備・運用の確認見直しを行う。</li> </ul>	<p>を行い防災体制の充実を図った。</p> <p>専門業者による消防設備点検を2回実施するとともに、防災倉庫を新設し、防災設備を充実させた。</p>
<p>④事故、感染症等の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故防止委員会を定期開催し、ヒヤリハット及び事故報告書を分析し事故防止体制を強化する。</li> <li>・ 感染防止委員会を定期開催するとともに、感染症について研修を行い、職員の知識を高めるとともに、感染症流行期には臨時の感染防止委員会を開催し予防及び蔓延防止の対応策を講じる。</li> </ul>	<p>④事故防止と感染症防止について、園内研修を実施した。</p> <p>事故防止委員会において、各フロアより事故報告を行い、対策等について検討を行った。</p> <p>感染防止委員会において、周辺地域の感染症発生情報等を共有し、職員に対し注意喚起を行った。職員は携帯用消毒液を携行し一行為一消毒の実施、感染防止ができた。手洗い・うがいの徹底、手指用・衣服用消毒液を使用し感染症防止体制を充実させた。</p> <p>流行期には、面会時の生食の持込み制限や面会制限など予防に努めた。結果、長期入所の利用者には1人もインフルエンザの発症はなし。</p>
<p>⑤虐待の防止及び早期発見・拘束ゼロの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尊厳保持、虐待防止、身体拘束防止についての委員会を定期開催し、身体拘束ゼロ、虐待ゼロを継続するため、外部研修への参加、園内研修の実施、身体的拘束等適正化のための指針の整備を行う。</li> </ul>	<p>⑤身体拘束防止委員会を年4回開催した。</p> <p>身体的拘束等適正化のための指針を策定し、ユニット毎に3か月目標を設定し、尊厳保持、虐待防止、身体的拘束防止の取り組みを行い、八王子市主催の高齢者虐待に関する研修に7名の職員が参加した。</p>
<p>⑥建物、設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全衛生委員会において、設備等の不具合について適宜確認し、必要に応じて改善を行うとともに定期的に建物・設備の点検を実施する。</li> </ul>	<p>⑥衛生管理者を議長とし、月1回安全衛生委員会を開き、設備不具合や職場内環境等、安全衛生面の確認、検討を行った。</p>
<p><b>(2) 社会・利用者ニーズへの的確な対応</b></p>	
<p>①個別サービス計画について、組織的な見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設サービス計画に基づき、個別の24シートを作成し、利用者及び家族等の要望にあったサービス提供を行う。</li> <li>・ 提供しているサービスの評価を定期的に行い、サービスの質向上に努める。</li> </ul>	<p>①ケアプラン方針会議を開催し個別サービス計画を組織的に見直しを行った。</p> <p>個別の計画書を作成し、家族等の同意のうえサービス提供を実施した。</p> <p>サービス計画を評価し、ケアプラン会議において、ご家族等の意向等を確認し、関係職員がサービス内容について検討することで、サービスの質の向上に繋げた。</p>
<p>②利用者・家族等の意見、要望の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者及び家族等に、ケアプラン会議へ出席していただき、利用者及び家族等の要望を把握する。</li> <li>・ 利用者が園長に、直接意見が出来る機会を設ける。</li> <li>・ 定期的な懇談会の開催により、利用者及び家族等と園との緊密な意見交換を図る。</li> <li>・ 第三者評価受審時の利用者アンケート調査をもとに、意見や要望の把握に努める。</li> </ul>	<p>②家族等に出来る限りケアプラン会議に出席していただき、利用者及び家族等の意向を反映したサービス計画を作成する事で、施設サービスについて、理解をしていただくことが出来た。</p> <p>園長が、毎日各フロアを巡回し、利用者が直接意見を言える機会を設けた。</p> <p>お花見会・敬老会の開催に合わせ家族懇談会を2回開催し、家族等の意向を直接聞き取る機会を設けた。</p> <p>12月の第三者評価受審時に、利用者及び家族にサービスに対する調査を実施し意見要望の把握に努めた。</p>

<p>③サービス計画に基づくサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の24シートに基づき食事、入浴、排せつ等のケアを実施する。</li> <li>・個別の機能訓練計画を作成し、日常生活動作の維持改善を図る。</li> <li>・選択食や季節感を取り入れた行事食等、きめ細かな食事サービスを実施する。</li> </ul>	<p>③記録委員会を4回実施し、記録の標準化・24時間シート及びケース記録の運用・入力の見直し・確認など向上を図った。</p> <p>機能訓練指導員がユニット職員と連携し、個別に利用者の日常生活動作の改善について機能訓練計画を立てて維持改善に努めた。</p> <p>日頃より旬の食材を使い、季節を感じていただけるような献立を作った。</p>
<p>④各種行事等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づき、お花見会（4月7日（土）実施予定）、夏祭り（7月27日（金）実施予定）、敬老会（9月15日（土）実施予定）等の全体行事を実施する。</li> <li>・利用者の要望をもとに、職員が計画立案するユニット活動やフロア合同での交流行事を実施する。</li> <li>・書道、カラオケ、手工芸、風船バレー、俳句、将棋、囲碁クラブ等のクラブ活動等を各部署協力して実施する。</li> <li>・オープンスペースを活用して、家族や地域の方の演奏披露、作品展示などの地域交流を図る。</li> </ul>	<p>④お花見会、敬老会、夏祭りの法人行事に加え、誕生会や外出活動をユニット毎に実施したり、クリスマス忘年会や運動会などフロア合同で準備開催し、利用者及び家族等に喜んでいただけた。</p> <p>書道、カラオケ、風船バレー、俳句、将棋クラブ等を、ボランティアの協力を得たり、各部署で担当しながら実施し、毎回ご利用者に楽しんでいただけた。</p> <p>今年度よりフロアごとに利用者の意向に応じた余暇活動として1階茶道・生け花、2階ふれあいクラブ、3階おたのしみクラブを毎月開催した。</p>

<p><b>(3) 事業の安定的・効率的な運営</b></p>	
<p>①経営感覚の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹部会にて毎月の収支を明らかにし、目標に対する進捗状況や経営状態を各職員が理解・把握する。</li> <li>・省エネ・節電、節水等により、経費の節約に努める。</li> </ul>	<p>①定例会や幹部会で、毎月の収支報告を行い、各部署の担当者が、収支の状況を理解する事が出来た。</p> <p>水道及びガスの使用量節減のため節水装置を取り付け、経費の節約に努めた。</p>
<p>②業務の簡素化・効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署で業務の効率化を積極的に検討し取り入れていく。</li> <li>・利用者管理システムや施設内LANを活用する事により、業務の効率化と簡素化を図る。</li> <li>・腰装着型介護ロボットの活用により、利用者の重度化対応及び介護職員の負担軽減を図る。</li> </ul>	<p>②業務委員会において、マニュアルの更新を行い、業務内容の見直しを行った。</p> <p>利用者管理システムや施設内ネットワークでの共有文書等の運用など効率化を図った。</p> <p>腰装着型介護ロボットの園内研修を行い、使用可能な職員を増やし、カレンダーで使用予定を管理するよう整備した。</p>
<p>③入居を計画的に安全に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援事業所や老人保健施設、サービス付高齢者住宅へのアプローチを行うなど、入居ニーズ取り込みの機会を増やす。</li> </ul>	<p>③入所前に生活相談員から、重要事項説明書をもとに丁寧な説明を行う事により、利用者及び家族等の不安が解消された。</p> <p>空床が発生次第、待機者と連絡を取り、入所日について相談すると同時に、入所日までの期間は短期利用者を積極的に受け入れた。重度者の方を積極的に受け入れた。</p>
<p><b>(4) 職員の知識・技術の向上と職場の活性化</b></p>	
<p>①知識・技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関する委員会を設置し、職員のケア能力向上を図る。</li> <li>・マニュアル等の見直しなど業務改善を行う。</li> <li>・施設外研修に積極的に参加し、その成果を活用する。</li> <li>・アクティブ福祉イン東京への発表に向け研究を行う。</li> </ul>	<p>①内部、外部研修を計画的に受講させた。</p> <p>年間の研修計画を作成し、月2回の施設内研修を実施した。</p> <p>業務委員会でマニュアル等の見直しや部署間連携の業務改善に取り組んだ。</p> <p>各種資格取得に向けた支援を行った。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格要件加算等に必要な各種資格を取得する際の支援体制の充実を図る。</li> </ul>	
<p>②職員の確保・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己申告書を活用したキャリアパスの構築を行い、職員の確保・定着を図ることを目的に職員一人ひとりが「やる気と誇り」を持って働くことが出来る職場づくりに努める。</li> <li>・青陽園と協力し、福祉専門学校等との連携強化を図る。また新卒者向け採用説明会等の開催を行い、人材確保を図る。</li> <li>・会議や業務の見直しを通じて年休取得率向上や職員の業務軽減に努める。</li> </ul>	<p>②ユニットケア推進委員会の取組みの中で、ユニットケア勉強会や市内ユニット型施設への見学・交流会を実施し、職員の業務に対する充実・達成感を醸成した。 青陽園と共同で、専門学校の就職ガイダンスに参加し、福祉専門学校や高等学校への職員採用情報提供を行った。</p>
<p>③法人内施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青陽園と連携し福祉専門学校等の介護実習施設として受け入れを実施する。</li> <li>・行事や研修等においては、青陽園を始め各施設と積極的に見学会や意見交換会などの交流を行い、他施設をより知るとともに情報の共有による一体感を醸成する。</li> </ul>	<p>③行事や合同研修等において、青陽園をはじめ各施設と積極的に見学会や意見交換会などの交流を行い、情報の共有や一体感の醸成ができた。</p>
<p><b>(5) 地域、後援会との連携</b></p>	
<p>①地域等連携事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青陽園及び地域包括支援センター川口と協力し、「認知症カフェ・さくら」を実施し、地域住民の語り場となるよう実施する。</li> <li>・「介護予防健康体操教室・前期」を青陽ホールで10回開催し、地域の介護予防に取り組む。</li> <li>・園の全体行事、法人主催の夏祭り（7月27日（金）実施予定）、チャリティバザー（10月6日（土）実施予定）、防災訓練（10月24日（水）実施予定）等とおして地域、後援会や保育園児・学童との交流を図る。</li> <li>・ホームページの更新と広報誌の定期発行を行い、広く情報提供を行う。</li> <li>・五町会との懇談会（6月15日（金）実施予定）に参加し、園の情報提供及び地域の情報収集に努める。</li> </ul>	<p>①月1回開催の「カフェさくら」の上半期を第二青陽園が担当し地域の方との交流を図った。「介護予防体操教室」の30年度前期を担当し機能訓練指導員を講師として全10回を開催した。 後援会と地域住民の方の協力を得て、また法人内の事業所と連携し、夏祭りチャリティバザー、合同防災訓練等を開催した。 広報委員会において、広報誌の作成を行い、敬老会では、日常生活の様子や季節ごとの行事等を映像化し、家族等に見ていただき好評を得た。 園長が近隣町会との懇談会に参加し、地域の情報や要望等情報収集に努めた。</p>
<p>②ボランティアの積極的な受入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア受け入れの拡大をはかり、利用者の生活の場への関わりやクラブ活動の参加機会を増やす。</li> </ul>	<p>②クラブ活動のほか法人夏祭り、敬老会にもボランティアの方に応援に来てもらい、行事に協力してもらった。年間で10グループ19名のボランティアに協力していただいた。</p>
<p>③高齢者関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都、八王子市との情報交換等を積極的に行う。</li> <li>・東京都社会福祉協議会、八王子市社会福祉協議会等との連携を図る。</li> <li>・定期的に八王子施設長会に参加し、他施設との情報交換を行う。</li> <li>・地域の医療機関との勉強会や情報交換を行う。</li> </ul>	<p>③東京都社会福祉協議会主催の研修や情報交換会に参加した。 八王子施設長会に参加し、他施設との情報交換や交流を行った。</p>